

医学研究科の教育基本方針

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

自主創造の理念を念頭に、醫明博愛の実践を基盤とし、自立した研究活動の基礎となる研究能力を身につけることを目的とする。この目的のために、以下のような人材を求める。

- （１）豊かな知識・教養に基づき、独創的研究を通じて医学の発展に貢献しようという意欲を有している。
- （２）高い倫理感、論理的思考力を持ち、研究成果を世界へ発信する意欲を有している。
- （３）独自の発想を粘り強く推進する研究への意欲を有している。
- （４）協調性を有し、多分野との学際的研究を推進する意欲を有している。
- （５）研究成果を人類の幸福に役立てる意欲を有している。
- （６）生涯を通じて研究心を持ち続ける意欲を有している。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

日本大学大学院医学研究科は日本大学教育憲章に基づき、

- （１）日本大学マインド、すなわち日本文化を理解し、国民の福祉・健康に寄与し、多様な文化を受容し、地域社会及び国際社会に貢献できる医学研究者及び研究指導者を育成する。
- （２）日本大学の理念である「自主創造」を構成する３つのカテゴリーである「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道を開く」姿勢を持って、独創性の高い研究を行い、人類の知の体系に貢献する医学研究者及び研究指導者を育成する。
- （３）大学院医学研究科は、醫明博愛を基に、「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道を開く」姿勢に関する以下の資質と能力を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査に合格した学生に対して、学位（博士）を授与する。

・『自ら学ぶ』

DP1: 「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」

生命の尊厳を畏敬し、責任ある医療を実践するための医の姿勢を理解し、倫理的原則に基づいた医学研究を実践できる。

DP2: 「保健・医療・福祉の現状理解に基づいた研究能力」

自己の専門領域の社会的位置付けを把握し、地域社会及び国際社会の保健・医療・福祉の現状を理解して、疾病予防と健康増進の向上に寄与する研究ができる。

・『自ら考える』

DP3:「論理的思考力」

新たな智の創造をめざし、得られた最新の情報を基に実証的・論理的・批判的な思考ができる。

DP4:「問題発見・解決力」

患者に対して思いやりと敬意を示し、基礎・臨床・社会医学領域いずれにおいても、事象を注意深く観察して、問題を発見し、解決策を提案するための研究を実践できる。

・『自ら道を開く』

DP5:「挑戦力」

医療の基盤となる知識を基に、独創的な智の創造に果敢に挑戦することができる。

DP6:「コミュニケーション力」

多様な文化、社会、環境の中で他者を理解し、その価値観を尊重し、適切なコミュニケーションを主体的に実践して、国際的・学際的研究を進めることができる。

DP7:「リーダーシップ・協働力」

医療・研究チームのメンバーと協働し、医療の質と研究環境の安全管理を念頭に、責任ある研究を実践することができる。

DP8:「省察力」

生涯にわたり、患者の安全を基盤に医療の質を担保し、謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて基礎・臨床・社会医学領域いずれにおいても研究能力を高めることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

医学研究科博士課程は、生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系に大別され、それぞれの学系は複数の専攻で構成されている。研究指導を受ける専攻を選択し、主科目 16 単位、副科目 10 単位及び選択科目 4 単位の合計 30 単位を取得し、学位論文を提出する。コースワークとリサーチワーク（講義、演習、実習等）を適切に組み合わせた体系的な授業形態を組み入れた 4 年間の教育課程を通じて、主科目及びその関連分野における深い学識と独創的な研究を行うことができる能力を身に付け、研究成果を海外に発信できる十分な能力と資質をもつ者を養成することを目的とする。

本研究科の教育課程は、上記の人材の養成を実現するために以下の方針に基づいて編成・運営される。

○生理系、病理系、社会医学系、内科系、外科系の広範な領域で研究指導科目（主科目）を設定し、研究計画に見合った幅広い知識や知見を修得することを可能とする。

- ・生理系は、形態生理学から細胞再生・移植医学までの10専攻から構成され、多角的な研究手法を用いて生命現象の本質を解き明かすことを目的としている。独創的かつ先進的な医学研究を推進する能力と幅広い学識を備え、国際水準で研究成果を発信できる研究者・教育者の養成を目指し指導を行う。
- ・病理系は9専攻で構成され、形態病理学にはじまり、微生物学、免疫学、腫瘍学、病態代謝学、臨床応用に直接関連した人工臓器・移植医学までに特化した専門性を有する指導を行う。
- ・社会医学系は5専攻で構成され、社会・環境、健康・疾病との関係を理解し、社会的に役立つ研究を行うために、疫学的手法・実験的手法などを研究に応用する能力が備わるよう指導を行う。
- ・内科系は20専攻で構成され、あらゆる疾病の病態解明、診断法・予防法・内科的治療法の確立を目指す。高度化・複雑化する内科系学の各分野の基礎・臨床研究を通して、医科学の進歩に対応し、科学的根拠に基づいた質の高い医療が実践できるよう指導を行う。
- ・外科系は14専攻で構成され、疾病に対して観血的手法により人体の恒常的回復を図るため、疾患の病態のみならず観血的侵襲そのものの探求が求められる。さらに損なわれた臓器または組織の機能の回復・代替補填を図るための広範の知識が必要になり、外科学に求められる臨床、基礎的研究を行えるように指導を行う。

○研究計画に見合った領域において、高度に専門的な知識を修得することを可能とするために、特定の領域に属する科目を集中的に修得できるよう、主科目、副科目及び選択科目を設置している。

○修得した知識及び知見を基に、学術研究の発展に寄与できる優れた学位論文を提出することを可能とするために、複数の教員による指導体制並びに関連領域の教員4名による審査体制をとることで、研究指導の強化・充実並びに学位論文の精度・質の向上を図る。

○学術・研究交流を深めるだけでなく、修了後も相互に交流し、学系・分野を越えた人的ネットワークを形成することで、研究者及び職業人としての諸活動を促進する場を設ける。